

「血液検査ガイド」

市立函館病院 中央検査部

検査項目の内容と基準値がわかります



項目	説明	基準範囲	単位
総ビリルビン	血液に含まれる黄色い色素で、便や尿の色のもとです。通常、肝臓から胆管を通り腸に排泄されますので、肝機能障害や胆管障害があると高くなります。	総 0.2～1.2	mg/dL
直接ビリルビン		直接 0.0～0.5	
総蛋白	血液に含まれる100種類以上のタンパク質の総称です。肝機能や腎機能が悪くなったり栄養失調になったりすると低くなります。	6.7～8.3	g/dL
アルブミン	総蛋白の約7割を占めるタンパク質です。肝機能や腎機能が悪くなったり栄養失調になったりすると低くなります。また急性の脱水症では高くなります。	3.9～5.3	g/dL
ZTT (クンケル)	肝機能が悪くなると増加するγ-グロブリンというタンパク質を測定する検査です。肝臓の病気や慢性の感染症、膠原病、骨髄腫、リウマチなどで高くなります。	2.0～12.0	U
CRP (C反応性蛋白)	炎症や組織細胞の破壊が起こった時に増加するタンパク質です。病気の進行度や重症度、経過、治療効果を判定する大切な指標となります。	0.30 以下	mg/dL
ALP (アルカリフォスファターゼ)	肝臓や腎臓、小腸、骨に含まれている酵素ですので、これらの臓器や骨の病気が高くなります。	110～350	U/L
AST (GOT)	GOTは心筋に一番多くある酵素で、他の筋肉や肝臓にもあります。一方のGPTはほとんどが肝臓にある酵素です。つまり両方が高いときは、肝臓の病気が疑われます。またGOTだけが大きいときは心筋梗塞など心臓の病気が疑われますが、筋肉を使う重労働や激しい運動後でも高くなります。	GOT 7～38	U/L
ALT (GPT)		GPT 4～43	
LD (LDH) (乳酸脱水素酵素)	特に肝臓の病気や心筋梗塞などで高くなりますが、あらゆる臓器に含まれている酵素で、さまざまな病気でも高くなることから、病気を発見するスクリーニング(ふるいわけ)検査としても用いられます。	119～229	U/L
CPK (クレアチンキナーゼ)	筋肉に多く含まれる酵素で、心筋梗塞や筋肉の病気などで高くなりますが、筋肉を使う重労働や激しい運動後でも高くなります。	男性 57～197 女性 32～180	U/L
γ-GT (γ-GTP)	腎臓、すい臓、肝臓に含まれている酵素です。アルコールや薬剤などが肝臓の細胞を破壊したり、胆管がつまったりした時などに高くなります。特にアルコールには敏感で、アルコール常飲者では高値を示すのが特徴です。	男性 10～60 女性 5～50	U/L
Ch-E (コリンエステラーゼ)	肝臓で生成される酵素で、肝臓の病気や農薬中毒などで低くなります。逆に腎臓の病気であるネフローゼ症候群では高くなります。	185～431	U/L
AMY (アミラーゼ)	唾液にも含まれますが、主としてすい臓から分泌される消化酵素です。すい臓の病気が高くなります。	43～127	U/L
CK-MB (クレアチンキナーゼ MB分画)	心臓の筋肉に含まれる酵素なので、心筋梗塞の診断や発作時から治療過程での経過観察に役立ちます。このほか心筋炎やアルコール依存症などでも高くなります。	16以下	U/L
総コレステロール (T-CHO)	血液に含まれるコレステロールや中性脂肪、リン脂質、遊離脂肪酸を併せて総コレステロールと言います。コレステロールは細胞や特定のホルモン、脂肪の消化を助ける胆汁酸の材料にもなっており必要不可欠なものですが、増えすぎると血管の壁に付着して動脈硬化の原因となります。さらに付着すると血管を詰まらせる一因にもなります。	150～219	mg/dL
中性脂肪 (TG)	脂肪細胞の中に貯えられています。必要に応じてエネルギーとして使われますが、増え過ぎると肥満や脂肪肝、動脈硬化を進める一因となります。	50～149	mg/dL
HDLコレステロール	いわゆる善玉コレステロールと呼ばれているもので、血管に付着したコレステロールを引き抜いて肝臓まで運ぶ働きがあります。従ってこれが高いほど動脈硬化になりにくいといわれています。	男性 40～86 女性 40～96	mg/dL
LDLコレステロール	いわゆる悪玉コレステロールと呼ばれているもので、余分なコレステロールを血管内に放置する働きがあり動脈硬化の引き金となります。これが高くなると動脈硬化をはじめ狭心症や心筋梗塞、脳梗塞などの発生率が高くなります。	70～139	mg/dL
尿素窒素 (UN)	タンパク質代謝の最終産物で腎臓から排泄される老廃物です。腎機能が悪くなるほかに、タンパク質の多量摂取や脱水症状でも高くなる場合があります。	6.0～20.0	mg/dL
クレアチニン (CRE)	タンパク質代謝の最終産物で腎臓から排泄される老廃物です。腎機能が悪くなると高くなります。	男性 0.50～1.00 女性 0.30～0.70	mg/dL
尿酸 (UA)	細胞の最終産物で腎臓から排泄される老廃物です。水に溶けにくく、体内に過剰に蓄積されると針のような結晶を作り、痛風発作の痛みの原因となります。	男性 3.7～7.0 女性 2.5～7.0	mg/dL

項目	説明	基準範囲	単位
Na (ナトリウム)	体内のナトリウムの大半が血液や細胞周囲の体液中にあります。ナトリウムは体内の細胞が正常な体液バランスを維持するのに必要です。また、正常な神経と筋肉機能に重要な役割を果たしています。	135～147	mEq/L
K (カリウム)	ナトリウムとのバランスにより細胞の正常化や血圧を調整したりする作用があります。またカリウムは血圧を下げる働きがあります。つまりカリウムとナトリウムのバランスにより血圧が正常に保たれます。	3.6～4.8	mEq/L
Cl (クロール)	主に食事中の塩分(NaCl)から摂取され、からだの水分保持や浸透圧の調節(酸・塩基平衡)などの働きをしています。	97～108	mEq/L
カルシウム (Ca)	成人の体内には約1kgのカルシウムが存在すると言われ、歯や骨の発育と維持に必要とされ、また多くの栄養素の吸収を助けます。更に、血液の凝固や心拍の調節、筋肉の収縮、神経の伝達などにも関わっています。	8.7～10.2	mg/dL
無機リン (IP)	カルシウムとともに骨の重要な構成成分です。排泄量の約60%は腎から尿として、残りは腸から便として排泄されます。腎機能が低下すると尿中への排泄が低下するので、血液中の無機リンが高くなります。	2.4～4.6	mg/dL
血清鉄 (Fe)	鉄はミネラルの一種で、体内にある鉄の約70%が赤血球をつくるヘモグロビンの材料として存在しています。主に貧血の原因を調べるための検査です。	男性 65～180 女性 55～165	μg/dL
ASO (抗ストレプトリジン-O抗体)	溶血性連鎖球菌という細菌が産生する酵素に対する抗体で、溶血性連鎖球菌に感染しているかどうかを調べる検査の1つです。溶血性連鎖球菌感染症にはリウマチ熱や急性糸球体腎炎のほか、しょう紅熱、皮膚化膿症、扁桃腺炎、肺炎などがあります。	160 以下	IU/mL
RF (リウマチ因子)	リウマチ疾患の代表的な検査です。高くなるとリウマチが疑われますが、膠原病や慢性肺疾患、慢性感染症などでも、高くなる場合があります。	15 以下	IU/mL
BNP (脳性ナ利尿ペプチド)	心筋から分泌される尿を出させるホルモンです。心機能の低下に敏感に反応して分泌され、心不全の重症化とともに上昇するので、心不全の診断と重症度の評価に役立ちます。	18.4 以下	pg/mL
ミオグロビン	筋肉中に存在するタンパク質で、筋肉中に酸素を取り込む働きがあります。心筋梗塞で高くなりますが、筋肉を使う重労働や激しい運動の後でも高くなります。	男性 154.9 以下 女性 106.0 以下	ng/mL
トロポニン I	筋肉を構成しているタンパク質の一種です。心筋障害を反映する指標として、血液検査の中では最も優れていると言われています。	26.2 以下	pg/mL
白血球数 (WBC)	白血球はさまざまな感染症や炎症で増加し、白血病では著しく増加します。逆に骨髄の働きが悪くなる病気などでは減少します。また、白血球を分類することも診断する上で大切です。なお、白血球数は運動や食事、喫煙、ストレス、入浴などによって10～15%ほど変動します。	40～90	×100/μL
赤血球数 (RBC)	体に酸素を運搬するヘモグロビンを含む血球です。貧血では赤血球数やヘモグロビンが低くなります。逆に赤血球数が多いと血液の流れが悪くなって血管がつまりやすくなります。	男性 410～520 女性 380～480	万/μL
色素量 (ヘモグロビン、Hb)	赤血球の赤い色素のもとで、酸素を体中に運ぶ重要な役割を担います。貧血で赤血球が少なくなると低くなります。輸血を行う際の指標としても用いられています。	男性 13.0～18.0 女性 12.0～16.0	g/dL
ヘマトクリット値 (Ht)	血液中にある赤血球の占める割合です。貧血で赤血球が少なくなると低くなります。	男性 40～48 女性 34～42	%
血小板数 (PLT)	血小板は血管が傷ついた場合に集まり、血管の傷を塞いで出血を止める役割があります。血小板が少ないと出血しやすくなったり、血が止まりにくくなったりします。	13.0～40.0	万/μL
HbA1c	過去1～3か月間の平均血糖値が分かりますので、糖尿病コントロール状況の観察に利用されます。血糖値と違い食事の影響を受けません。	4.6～6.2	%
血糖 (グルコース)	血液中のブドウ糖の量です。糖尿病では高くなりますが、健常人でも食後1～2時間は高くなります。	70～109	mg/dL

●検査結果での(L)…基準範囲より低くなっています

●検査結果での(H)…基準範囲より高くなっています

『血液検査ガイド』について

この『血液検査ガイド』では、当院で行われる血液検査の中から、一般的な検査項目について、簡単な説明と基準範囲を掲載しております。検査結果の参考資料としてご活用いただければと思います。また1階に『検査説明コーナー』を開設し専門の技師が、検査説明を行っております。予約や医師の紹介は必要ありませんのでお気軽においで下さい。この『血液検査ガイド』は当院1階のロビーにも設置しておりますので、ご利用ください。

☆中央検査部に関してご意見などありましたら「みなさんのこえ」もご利用ください。

